隊員と家族をつなぐ 家族会ほっとライン

海上自衛隊 南鳥島航空派遣隊

「おやばと」読者の皆さまにおかれましては、平素から諸行事、活動などに対してさまざまなご支援をいただき、誠にありがとうございます。

南鳥島の概要

日本領土の最東端にあたる南鳥島は、東京の南東約1900㎞、硫黄島の東方約1300㎞で、サイパンやグアムよりも東側に位置します。外周約6㎞、面積約1・5平方㎞の正三角形の形状をした海抜約8㍍の珊瑚礁の島で、幅約200㍍のリーフで全周を囲まれています。

亜熱帯海洋性気候で、年間平均気温は約25℃、年間平均降水量は約1000㎜（東京の約3分の2）と、温暖な気候に感じられるかもしれませんが、12月でも日焼けするほど、年間を通じて日差しは強いです。

島の歴史

南鳥島は、1864年、ハワイの宣教師によって確認され「マーカス島」と命名されたと記録されています。明治29年、小笠原諸島から日本人が移住し、明治31年、日本国政府によって「南鳥島」と命名されました。昭和10年から海軍が駐屯し、戦時中は陸・海軍併せて最大4500人が駐屯し、着上陸作戦はなかったものの、艦砲射撃および空爆を受けた結果、191人の戦死が確認されています。

終戦後は米軍が進駐しましたが、昭和43年、小笠原諸島の返還とともに「南鳥島航空派遣隊」が発足しました。

また平成18年には大型で猛烈な台風の接近に伴い、全島民が避難しましたが、庁舎などの施設は甚大な被害を受け、平成21年3月に現庁舎へと建て替えられました。

南鳥島航空派遣隊の任務

南鳥島航空派遣隊（以下「南空派」）は、海上自衛隊硫黄島航空基地隊の派遣隊として南鳥島に所在しています。

その任務は「航空機乗員および訓練要員に対する便宜供与を行うこと」であり「航空基地施設の管理運用」に関する業務を行っています。具体的には、離着陸場としての機能の維持、航空通信および気象情報などの提供、列線業務（燃料補給、物資搭載・卸下）および来島者に対する宿泊・給養・車両支援など、他の航空基地と同様の業務を実施しています。

島の生活

南鳥島には隊員の他に、気象庁南鳥島観測所および国土交通省南鳥島港湾保全管理所の3省庁の職員が勤務しており、同じ島の住民として相互に協力しながら勤務・生活しています。

南鳥島への人員の移動および物資などの補給は、海自C－130R輸送機により、神奈川県厚木航空基地から硫黄島を経由し、約6時間をかけて輸送されます。

ちなみに、南鳥島の滑走路距離（1371㍍）は、他の飛行場に比べて短く、この島に着陸できる能力を持つ主な航空機は、C－130型航空機とUS－2救難飛行艇になります。

また、南鳥島は国によって管理され、民間人も住んでいないため、飲食店、食料品店、自動販売機などもありません。食事場所も南空派の隊員食堂に限られ、調理以外の作業（食器準備、配膳、洗浄および片付け）も、隊員と職員で協力して行っています。

島内で使用される電気および水については、3省庁全ての施設に必要な量が行き届いていますが、テレビや携帯電話など、通信回線は全て衛星を介していることから、テレビは衛星放送のみで、携帯電話は回線が細いため、動画は視聴できない環境です。

島の魅力と休日の過ごし方

生活面は、上記のとおり内地に比べて不便な環境を想像されるかもしれませんが、南鳥島特有の魅力や楽しみ方もあります。

日本一早い日出没、青い空に青い海、真っ白な砂浜とリーフ、そこに生きる動植物など、魅力あふれる島です。

1年に数回だけ、夕日の沈む瞬間に「グリーンフラッシュ」と呼ばれる水平線上に伸びる幻想的な光を目撃することもできます。晴れた夜には、街灯のない真っ暗な地上から空を見上げると満天の星空を、1月から6月頃は南十字星を見ることもできます。

また、休日には、島内散策、浜辺を散歩、バードウォッチング、写真撮影、天体観測などの時間を楽しみ、自然に触れ、自然に癒されながら、かけがえのない時間を過ごしています。

最後に

戦時中、陸海軍が駐屯した南鳥島ですが、島内にはまだ多くの戦跡も残っています。

先人たちは当時、今と変わらぬ灼熱の太陽のもと、国のため、家族や友人のため、二度と内地には戻れない覚悟で、水や食料も不足する中、狭く薄暗いトーチカに息を潜め、この島を守り抜こうとしました。

われわれは日々、これら先人たちにも思いを馳せ、身の引き締まる思いで勤務しています。南鳥島は絶海の小さな孤島ですが、周囲200マイルの広大な排他的経済水域に豊かな海洋資源を有した、国益上、非常に重要な島であります。

南空派隊員一同、引き続き、わが国最東端での国土防衛の任に、自覚と誇りを持って勤務し、基地機能を維持・管理していく所存です。

南鳥島日本最東端の碑

「最東端の自衛隊　南鳥島航空派遣隊」

南鳥島航空派遣隊長　3等海佐　紺谷　泰久

東海・北陸地域協議会

地域協議会（富山大会）を開催

越中おわら節で親睦を深める

東海・北陸地域協議会が10月24日と25日の両日、富山市内で開催されました。

初日は、中方幕僚副長、10師団副師団長をはじめ近隣の陸海空自衛隊からの参加をいただき、家族会会員約150人と共に、意見交換会、防衛講話、懇親会が行われました。

意見交換会は、家族支援協力をテーマにパネルディスカッション形式で行われ、各県会長からの現状や問題点の発表に続き、会場の会員からも多くの発言がありました。会員の減勢、高齢化に伴い、活動が制限されるなどの率直な声、自衛隊への要望などが出され、部隊側からは「貴重な意見をいただいた。部隊の中でも議論していきたい」旨の発言もいただきました。

今回の意見交換を機に、家族会と部隊との関係がさらに深くなり、家族支援の実効性が高まることを期待します。

グループワークの様子

続いて、岡部俊哉元陸上幕僚長による防衛講話が行われました。防衛力の抜本的強化の陰にあるさまざまな問題や活動する隊員の心のケアについて語られ、参加者は国防が自衛隊だけでは成り立たず、国家・国民の問題であることを再認識しました。

2日目は、約70人（富山県約50人、他県約20人）を7つのグループに分けて「魅力的な家族会にするには」をテーマにグループワークが行われました。

最初に家族会入会勧誘の寸劇が披露され、それを元に各グループで①自己紹介、②寸劇の感想、③魅力化のアイデア、④自分でできること、⑤自由意見という項目毎に付箋紙に意見を書いては話し、大きな作業用紙に意見を埋めていきます。緊張気味だった参加者も、進めるうちに打ち解け、さまざまな意見が出ていました。

最後の発表も結論を得るのではなく、自分の言葉で話すことにポイントが置かれ、意見の紹介という形で行われました。

2日間にわたった今回の協議会は、工夫と周到な準備のおかげで有意義なものとなりました。会員参加型の協議会を企画、運営していただいた富山県家族会の皆さまには深く感謝いたします。

最後に、懇親会で女性部を中心に越中おわら節を披露くださり、その後、全員参加者全員で集合写真

北関東地域協議会

地域協議会総会3年ぶりに一同に会し開催

自衛官募集は積極的な協力が重要と再認識

北関東地域協議会（剱持省司会長）は9月24日と25日の両日、伊香保温泉地区および相馬原駐屯地で、冨樫東部方面総監、前島第12旅団長、群馬・栃木・新潟および長野各地方協力本部長、小島群馬県隊友会長、川又理事はじめ多数の来賓のご臨席をいただき、総勢54人で第33回総会と相馬原駐屯地研修を実施しました。

研究討議は「家族支援協力態勢の整備」「自衛官募集に関して着意している事項」の2項目について討議しました。

討議では活発な議論が展開され、家族支援協力については、今後実施しなければならない事項が明確になり、また、自衛官募集については、危機的状況にあり、より積極的な協力が重要であるとの共通認識を得ることができました。

総会に引き続き、今年度新編された第12偵察戦闘大隊長（神取2等陸佐）から講演をいただき、部隊の現状と今後の活動、特に、第12旅団は空中機動のみならず、空地両輪の機動発揮により、ますます重要な任務を遂行するだろうとの認識を得ることができました。

翌日は相馬原駐屯地で、機動戦闘車・輸送ヘリコプターなどを研修し、総会と研修を終了することができました。

ご支援・ご協力いただきました皆さまに改めて感謝申し上げます。

（北関東地域協議会　会長　剱持　省司）

四国地域協議会

協議会を善通寺駐屯地で開催

自由闊達な意見交換につながる

10月27日、香川県善通寺駐屯地で令和5年四国地域協議会（原洋吾会長）を香川県家族会担任により開催いたしました。

四国4県で持ち回り開催にしているもので、今回は香川県家族会が世話役を担いました。

「形式より実を取る！」という趣旨にて「会員拡充のためには」をテーマに実施し、問題点に対しては自由闊達な意見交換につながりました。

各地方協力本部長から今後も家族会に協力していくとのお言葉をいただいたことも成果の一つです。

協議会終了後、第15即応機動連隊および善通寺駐屯地業務隊ご協力の下、装備品展示を見学させていただきました。

また、第2部では平井会長（香川県家族会会長）のあいさつ後、意見交換懇親会を行いました。開催場所が駐屯地でしたので大場剛第14旅団長をはじめ、善通寺駐屯地司令、各部隊長、各地方協力本部長、中部方面総監部人事部募集課計画班長など、多くの各部隊の隊員たちにご参加いただけたことで、参加者の楽しそうな笑顔が印象的でした。総勢約150人での相互交流が叶い、とても有意義な時間でした。

ご参加の家族会諸兄にはもとより、多忙な中、列席いただいた来賓の大場剛第14旅団長はじめ各部隊長、各部隊隊員の皆さまには重ねて厚く御礼申し上げます。

また、お忙しい中、ご協力いただきました香川地方協力本部の皆さまには心より感謝申し上げます。

（香川県自衛隊家族会　副会長　秋山　有希子）

闊達な意見交換をする参加者

鳥取県

多用途支援艦「ひうち」が鳥取港に寄港！

受付開始前から長蛇の列ができる

晴天の鳥取港に艦艇広報として舞鶴地方隊所属の多用途支援艦「ひうち」（艦長・羽田野由佳3等海佐以下乗員40人）が11月2日・特別公開と、3日・一般公開のために寄港しました。

鳥取県自衛隊家族会（前田節夫会長）は特別公開に激励訪問しました。

多用途支援艦「ひうち」は各種射撃、発射訓練の支援のほか自走不能になった僚艦や標的監の曳航・消火・救難・物資輸送・離島に対する災害派遣など多目的に使用するために建造された船であると説明を受けました。まさに「多用途」に活躍している海上自衛隊の縁の下の力持ち的な艦艇です。

特別公開日には1時間半ほど鳥取砂丘沖を航海していただきました。航海中は羽田野艦長自ら艦橋に立って指揮する中、各部署の隊員から艦内の説明を聞きました。

一般公開日には鳥取県自衛隊協力団体合同で表敬訪問を行いました。家族会会員も15人が見学に参加しました。

天気も良く、祭日も重なって満艦飾で飾られた多用途支援艦「ひうち」では、受付開始前から長蛇の列ができるほど人気も高く、家族連れなどで賑わい、子供たちはもちろん大人まで楽しめました。

（鳥取県自衛隊家族会　会長　前田　節夫）

艦長と記念撮影

神奈川県

さまざまな経歴を持った方々の入隊式等

入隊1週間とは思えない成長ぶりを披露

神奈川県自衛隊家族会（中條祐介会長）は10月2日、海上自衛隊横須賀教育隊（隊司令・大賀康弘1等海佐）で第130期公募海曹課程（9人）・第28期自衛官候補生課程（37人）・第18期自衛官候補生（女性）課程（7人）の入隊式および准・曹・士再任用講習（11人）の始講式に、参加しました。

この式典の特徴は、タイトルにもあるようにさまざまな経歴を持った方々が集まり、春の入隊式とは少し異なるものでした。

公募海曹課程は一般社会で勤務の経験があり、高い技能知識を持って自衛隊に入隊される方々で、再任用講習は一度、一般社会へ転身された後、自衛隊に再度入隊された方々です。

学校を卒業後入隊された自衛官候補生を含めると多種多様な経歴を持った方々が一堂に会し、これから海上自衛官としての基礎を修得、もしくは再確認すべく鍛錬の日々が始まることになります。

晴れの式典を迎えた皆さんを祝福、激励するため内外から国会議員をはじめ地元自治体の長、関連団体の代表者、近隣部隊の指揮官、そして遠方からもご家族が出席し伊藤横須賀地方総監臨席の下、盛大に式典が挙行されました。

新入隊の皆さんの基本動作は既に随分と自衛官らしく、大声で凛々しい宣誓は着隊からわずか1週間ほどとは思えない成長ぶりを感じさせるものでした。

大賀教育隊司令は、海上自衛官としての知識や技能の習得だけではなく良き社会人たるよう研鑽することを要望されました。数カ月後、より逞しく成長した彼らが各部隊に巣立っていく姿を見るのが今から楽しみです。

（神奈川県自衛隊家族会　副会長　杉田　慎治）

大声で凛々しい宣誓

家族会長等奮戦記 79

誇れる日本、誇れる家族会を次の世代に繋げるために

愛媛県自衛隊家族会　会長　森川　建司

はじめに

皆さん、こんにちは。

昨年5月から会長を務めている森川と申します。10数年にも及び会長をされた三好氏の後任となった若輩者であります。上番に当りいろいろな経緯はございましたが、引き受けた以上は家族会の発展に少しでも寄与したいとの思いでやっております。

会長としての抱負

上番以来、各地区の総会や、地域協議会の総会や行事などには極力参加するようにしています。来賓として途中参加するのでは無くて、総会の冒頭から参加して各地区会の実情把握に努めています。そのことにより、各地区会が、それぞれの歴史を紡いできていることや、それぞれが味のある活動をしていることを知ることができます。

毎回、驚きと感動と、感謝に堪えないところであり、毎回が勉強といったところです。

愛媛県家族会の自慢

1つ目は、総会の来賓です。地区によって差はあるものの、総会の来賓は地元選出の国会議員、県議会議員、首長、市議会議員などそうそうたるメンバーが集まり、激励や感謝の言葉が続きます。

会員にとっては、そのことが大きな励みになりますし、自衛官の家族として誇りを感じます。これも長年地区会が地道な活動を続けてきた賜物であります。

2つ目は、県家族会婦人部の団結と行動力です。駐屯地記念日や、艦艇広報行事、地域行事などには売店を出して、各行事を盛り上げます。

また、婦人部初の松山駐屯地研修も行いました。婦人部会員10数人が駐屯地に泊まり、ベッドメイク、駐屯地の食事、風呂などを体験し、子を思う親として感慨深いものがあったとのことでした。

3つ目は各地区会の独自の企画や心溢れる活動です。具体的には、各地区独自の音楽演奏会の開催（今治、西条、四国中央）、尖閣諸島を守る会の講演会開催（西条、八幡浜）、20年以上に続く地区機関誌の毎月発刊（松山）、広域多岐にわたる研修旅行の実施（大洲）などです。

会長として日々心掛け、実行していること

私は、家族会会長としていろいろな行事であいさつをする機会がありますが、その際のキーワードは「自分の国は自分で守る当たり前のことをウクライナ国民に学ぼう」「自衛官の皆さん及高揚に努めると共に、自衛隊に対する協力・支援等を通じ、わが国の安全保障・防衛基盤の確立に寄与する」です。

いまこそ、家族会の真価が問われています。本会の目的達成のために会員各位が先頭に立って行動することが必須であると確信しています。

情報化への対応

DXの推進が叫ばれる時代、愛媛県家族会も遅ればせながら迅速な情報の共有に努めています。具体的にはLINEを私、事務局長、各地区会長との間で構成し、各種行事などを配信し、即座に情報を共有できるようにしています。

また司令や地本長ともLINEでつながっていて、いつでも情報の共有や相談ができるようにしています。

さらに、当会は平成26年からホームページを立ち上げています。

隊員および家族会会員からの相談対応

隊員や会員からいろんな相談が寄せられます。迅速な相談対応を心がけ、会の魅力化に取り組んでまいります。

新米会長として、取り組みの一端、感想などを紹介いたしましたが、残り2年余りの任期を全うするべく全力で駆け抜けてまいる所存であります。

誇れる日本、誇れる家族会を次の世代につなげるために。全国の会員の皆さんのご指導ご鞭撻をお願い申し上げ、筆をおきます。

編集後記

▽ロシアのウクライナ侵略、中東でのイスラエルとハマスの戦いの中、防衛省・自衛隊は各種行事を整斉と実施。航空観閲式と音楽まつりの記事を1面に掲載しました。▽2面、コロナ禍に学ぶでは、海自の遠洋航海を掲載。ご一読ください。▽6面、今年の歌壇・俳壇の各年間優秀作品賞が決定しました。優秀作品賞を受賞された皆さん、おめでとうございます。▽8面、今回の離島特集は、日本最東端の南鳥島です。青い空と青い海、楽園のようです。訪問できないのが残念です。

購読のご案内
防衛省・自衛隊の様々なトピックスを満載した「朝雲」は、どなたでも購読できます。退官後も部隊や後輩の補職先、活躍ぶりが一目りょう然。お申し込みは下記へ。
1年契約 9240円（税・送料込み）
電話　03・3225・3841
FAX　03・3225・3831
朝雲新聞社
〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町12-20KKビル

滞在型 濃密VCコート
ほんのり酸っぱい、瀬戸内レモン風味
粉末タイプ
一般的なビタミンCよりも長く体内でとどまってくれるので、効率的にビタミンCを摂取することができます。
美容に興味がある方
効率的にビタミンCを摂取したい方
食生活の乱れが気になる方
瀬戸内レモン末入
保存料・着色料不使用
60g（2g×30本）2,980円（税込・送料込）栄養機能食品（ビタミンC）
濃密VCコート
https://nutrient-official-store.myshopify.com
株式会社ニュートリエント 〒615-0032 京都市右京区西院西高田町17-14

自由が丘駅から3分 やすらぎの納骨堂
88万円～
堂内墓50年間使用権　永代供養
遺骨収蔵厨子　銘板・彫刻
※別途護持会費【年間】18,000円
自由が丘陵苑
見学予約・資料請求・お問い合わせ
0120-155-594 https://jiyugaokaryoen.jp
受付時間:10時～17時 〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-29-11